

町のうごき	
本籍数	5,393
本籍人口	16,535
世帯数	4,505 (4,487)
住民登録人口	16,469 (16,395)
内	
男	7,997
女	8,472
8月1日現在	
()内は7月1日現在	

広報 てんのう

No. 188

昭和53年

9月1日発行

発行・秋田県天王町役場 電(018878)2211~4
 編集・企画室 印刷・秋田協同印刷 電(0188)7477~8

体育の祭典

暑さにもまげず
 各種目にハッスル
 一見玉チームが総合優勝

▶「早く、早くバトンよこへ」(部落対抗リレー)



◀「そろれひけワッショイ」(力の入ったつな引き)



◀「もうちよつとだよ」(つぎ輪リレー)



◀「ボールどこだ」(ボール送り競争)



▶「あえーなして入らねべ」(玉入れ競争)

▶「こんちくしょう負けねド」(一般百メートル走)

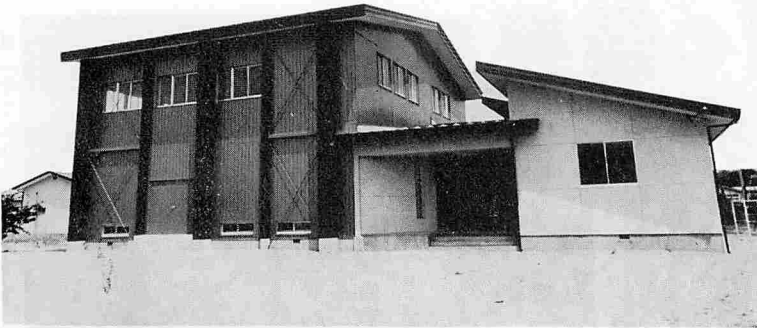


出戸地区コミュニティセンター完成

地域社会づくりの拠点に

…… 8月5日に竣工式 ……

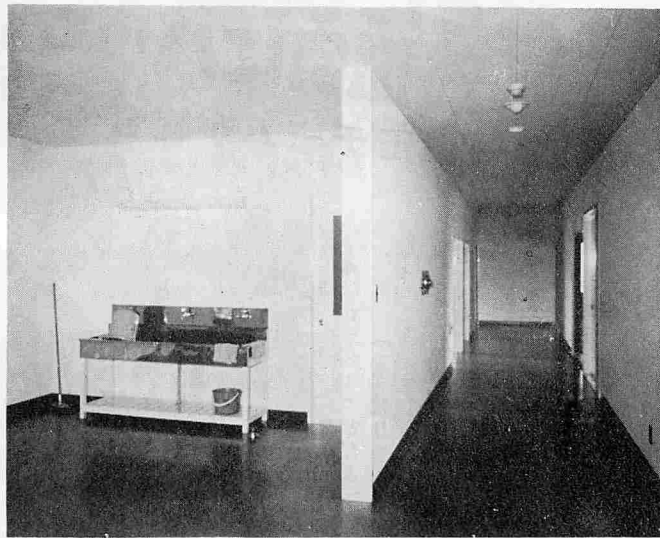
▶ コミュニティセンター全景



▶ 天井も高くすばらしい体育館



▼ 玄関から各部屋に通じる廊下

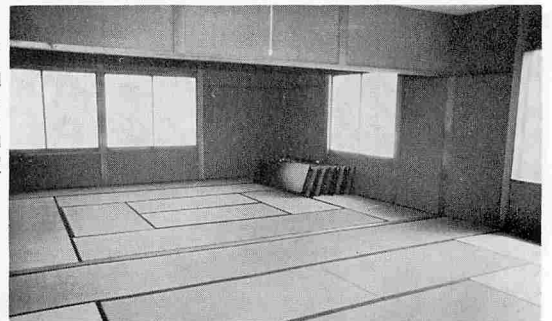


八月五日、念願の天王町立出戸地区コミュニティセンターの竣工式が同体育館で行われた。出戸地区コミュニティセンターは、町民の社会連帯感の向上をはかり、健康で文化的な地域社会づくり活動を進めるために設置されたもので、事務室や調理室などを含む管理棟の第一期工事が、昭和五十二年の十月から着工し、五十三年の一月に完成しました。そして新年度から第二期工事として体育館に着工。このたびの完成をみました。総工費三千四百三十万円で、管理棟の面積二百五十平方メートル、体育館二百平方メートルで総面積四百五十平方メートルのすばらしい殿堂です。事務室には図書室ももうけられ各地区の会議や読書などへの関心度はますます高まるでしょう。

調理実習室は、主に婦人の方々の調理実習や宴会などに、また和室が三室あり、各部屋の大きさに応じて使い分けられます。新しく増設された体育館は、町公民館の体育館にも匹敵すべき立派なもので、バレー、バトミントン、ダンスなどのスポーツがとれ、出戸地区の社会体育の向上に大きな成果が期待されます。

出戸地区は、出戸新町、上出戸、下出戸、細谷、三軒屋に分散し、総合運動会などを行っていませんが、コミュニティセンターの新設により、さらにコミュニケーションがはかれ、親睦と和を深めるとともに出戸地区の進展に大きな役割をはたすことでしょう。

▶ 通しの和室



郷土史コーナー【71】

よのげ

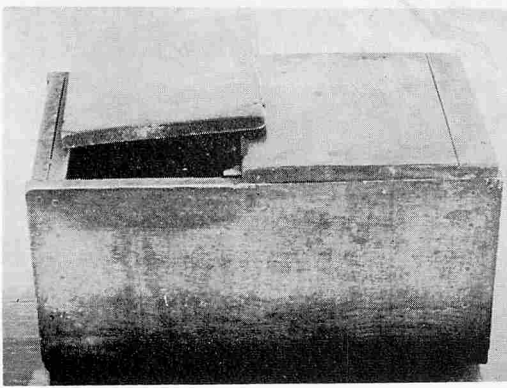
米櫃のことをよのげと呼んでいる。米を入れるいれもの、即ち米箱から変化したものと考えられる古い呼称である。この黒びかりするよのげは、縦四十二センチ、横七十六センチ、深さ三十七センチ

(内法)米一俵を収納できる標準的なもので、子供がなまはげから身を隠す恰好の場となった大きさである。ふたには引き手がついており、引き戸のようにびたりと閉まり、ねずみや虫が入らないようになっている。

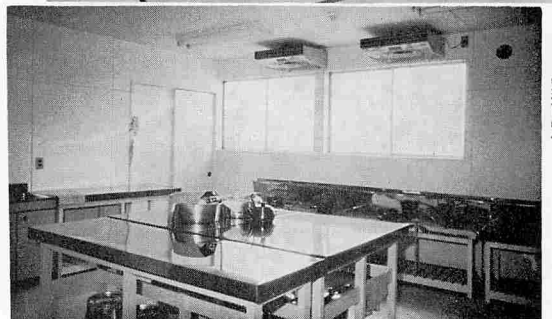
昭和七、八年頃は、白米一升が男の手間賃という相場であったから、よのげの米の蓄えがその家の裕福さを語っていた。

一家族十人という構成が普通であり、よの

終戦直後、米は金銭以上に絶対的な価値を持ったからよのげの管理はきびしかった。嫁が米を持ち出すことを防ぐため、ならした米の上に文字を書いていた姑がいたという笑えぬ話も聞かれた。(石川記)



◀ 設備のととのった調理実習室



成果のあつた海外研修

各地区で歓迎

——村山金光——

私たち研修団員は、七月二十一日期待と不安を胸に秋田港を出航した。

訪ソ青年の船には以前より關心があり、ラッキーセブンのとおり第七回目の海外研修団員に選ばれたことを幸運に思っています。

秋田港を出航し、約二十六時間後ナホトカ港に着き、ピオネールの子供たちのあたたかい歓迎にすこく感激しました。

歓迎のあと、ナホトカ公園、日本人墓地をおとす。外国の地で戦争ではた人たちの名を見て胸にこみあげてくるものを押さえることができませんでした。一路ナホトカ駅から雄大な景にふれ、ハバロスクへと向い空路でソ連の首都モスクワへ入った。

さすがにモスクワは近代的な建物がたち並び、政治、経済の中心の地を思わせるに充分であった。反面古風な建物も歴史を語るに充分で、近代建築とのバランスが奇妙な組み合わせに思えた。

当日、モスクワの天候はあい



国民経済博覧会々場前にて

最後にこの研修成果を天王町、また青年会活動に充分に発揮し、頑張りたいと思っております。



七月二十一日

から八月三日にわたって行われた、昭和五十三年度訪ソ青年の船海外研修から団員である、村山金光、村山隆則の両氏が帰国しました。

村山両氏が目で見はだで感じたソビエト連邦の姿や印象をレポートにさせていただきました。

青年海外研修

予想以上に大きい ソビエト連邦

優先される社会福祉

夢と希望のある太陽の街

1,000人の子供が療養生活

——村山隆則——

々、そしてピオネールの少年少女の器楽演奏、舞踊、合唱と息のつく間もないほど盛大な歓迎をうけた。

私たちは今、ハバロスク、モスクワ、レニングラード、キエフと研修訪問の一步を印したのである。

一路ハバロスクへと、シベリア鉄道に乗車。

ソビエト連邦は、日本の六十倍、世界陸地の六分の一を占める大陸とわかつてはいても、车窗からのぞむ景観の雄大さにあらためて驚いた。そして道路の両側には白樺林が延々と続き、街には広い公園、広場があり環境の良さにうらやましい限りである。

私たち研修団員がどこでも目をみはつたのが婦人労働者の多いことである。特に路面電車、トロリーバスの運転手など日本では男性的な仕事に女性がたずさわっているのにはビックリ。

ソビエトではさまざまな職業に女性が進出し、能力さえあれば男女の区別はないとのこと。モスクワではソビエトの農業ソホーズを見学しました。日本では見ることのできない大規模なもので、設備もすばらしく、ほう大な経費を費しているようであった。またハウス園芸ではトマトの栽培が行われていたが、



▲「夏の宮殿」前の噴水をバックに

七月二十一日、秋田港をはなれ、翌二十二日には待望のナホトカ港に着いた。

私たち研修団員は、小粒で、質より量という感じが強かった。我国では小規模経営ではあるが良質な物を要求されているところに違いがあるのではないだろうか。

また、何よりも驚いたのは医師看護婦などのスタッフの多さであった。

ソビエトの社会福祉施設のひとつである「太陽の街」を見学して、社会福祉の進んでいることをこの目で確めた。

反面、街中を走る車は日本では車検がおらないような旧型の車が多く、無駄のない質素な生活がうかがえた。

最後にこの研修に際して関係者、ならびに地域のみなさんのご好意にお礼を申し上げます。

長寿おめでとう

元気に楽しいひとときを

二十日に敬老会

町主催の敬老会が九月二十日、町公民館を会場に行われます。

当日は、バスで送迎し、踊りや民謡などを一緒に歌い、踊りながら楽しく一日を過ごされるよう企画されています。

なお、名簿からもれている方がおりましたら、役場民生係にご連絡くださるようお願いいたします。

◎印は、ハトづえが贈られる方です。

▲塩

米谷チイ93、木元カネ83、桜庭リエ82、桜庭ムラ81、桜庭カネ81、丸谷タケノ75、桜庭梅之助75、桜庭喜六75、桜庭キナ74、桜庭チヨエ74、桜庭マツノ74、桜庭キナ73、桜庭与三郎73、桜庭ミツ子、佐藤ミサト、石井ミエ71、桜庭チエ71、佐藤金治郎71、桜庭徳治70、桜庭スエ70、米谷ミエ70、桜庭キエ70、桜庭喜三助70

▲中羽立

菅生喜代吉83、目黒多助83、菅生マツノ82、菅生トクエ80、菅生ヨシ78、菅生喜代蔵78、菅生鉄之助77、菅生治治74、菅生アノ73、菅生リヨ72、菅生タツエ71、菅原ヨキ70、菅生ハツ70

▲羽立

鈴木サダ89、菅生チヨノ85、安田キノ84、安田キノ83、江島チヨ83、安田トヨ83、鈴木タカ83、鈴木与七82、菅生常五郎82、安田仁七82、児玉トメノ81、安田亦六80、安田安蔵78、西村才吉78、菅生周助78、安田ツエ77、鈴木ヨリ76、安田キノ76

▲波谷

桜庭ミナ85、戸田イト81、渋谷竹治80、桜庭惣市78、米谷ミツノ77、桜庭ヨス76、渋谷トミエ73、桜庭アヤエ73、石川与市73、加藤リサ72、鈴木為治郎72、渋谷市蔵71、渋谷市太郎71

▲天

越後カネ91、鎌田和助91、柏崎キノ89、村山カネ88、戸田ハナ84、米谷ナノ84、佐々木リヤナ84、吉沢トメノ83、茂呂喜代治83、戸田ハルヨ82、金子マツ82、石黒キノ82、鎌田サノ81、京谷仁左エ門82、沼田キヤ81、武石ノブ81、桜庭千代吉81、山片弘道81、石黒フクエ80、鎌田ミ子80、児玉キエ80、西村菊治80、三浦金松80、村山卯之吉79、藤

▲江川

藤原セツ85、伊藤タケ83、工藤千代治83、児玉弥市82、藤原忠治81、藤原ツナ81、佐藤ハツ80、伊藤イワ79、◎石井カネ子

▲児玉

松村シナ86、菊地駒吉80、薄田ノエ79、菊地セツ75、武田倉吉75、渡部カネ73、児玉ハル72、佐藤金蔵72、橋本ハツ71、森元銀治71、菊地イツ70

▲大崎

吉田ハル89、石井茂助86、和田ハナ85、三浦清之助85、三浦シゲ82、吉田スギ82、三浦喜一郎82、三浦福太郎82、三浦カネ81、吉田兼吉81、三浦チヨ80、三浦トキ80、◎島山タキノ80、◎三浦トキ78、◎三浦連吉78、吉田ヨリ77、三浦カネ77、菅原寅吉77、吉田チ子76、三浦セチ75、菅原キサ75、三浦清之助75、三浦雄助75、吉田吉治郎75、三浦クエ74、三浦キノ74、三浦治助74、三浦テツ73、吉田カ子ノ73、三浦カ子ヲ73、三浦ハナヨ73、三浦三蔵73、三浦清瀧郎73、三浦カネノ72、三浦治之助72、三浦カツ71、三浦萬太郎71、宮川リノ助71、吉田鉄太郎71、宮川リノ71、草皆銀蔵70、三浦キエ子70、吉田スナ70、板橋ツヨノ70、三浦善七郎70、菅原富蔵70

▲二田

伊藤ナカ91、福田富治87、小野ソヨ86、小野スミ85、沢畑オマネ83、島山富五郎83、二田是儀83、三浦隆次83、藤原文治83、熊谷ススキ82、保坂セツ82、福田み谷82、石井富蔵82、伊藤寛蔵81、保坂竹治81、加藤孫助81、眞壁善助81、伊藤シキノ80、佐藤スナ80、高橋マキエ80、村井千代吉80、加藤光79、信田ヤス79、◎武田ウメノ79、◎大関ナツ79、◎眞壁キエ79、石尾ヨシ78、米沢谷フクエ78、目黒ヨシ78、鎌田タケ78、伊藤サノ78、伊藤イソ78、◎渡部金三78、内田耕学78、吉田兵治78、沢畑イト77、中村タケノ77、三浦タケノ77、三浦リカ77、大関竹松77、高橋貞治77、越前健吉77、渡部良蔵77、奈良利三郎77、佐藤久吉77、鈴木ミエ76、伊藤ミエ76、三浦利七76、眞壁熊太郎76、波谷倉蔵76、藤原ツナ75、船木リツ75、中泉ハル75、越前トヨ75、後藤田キヨ75、三浦サメ75、後藤勘治郎75、鈴木ヨリ74、児玉ナ74、佐藤菊治74、上村カネ74、大関ツナ74、佐藤クラ74、古戸スノ74、小倉佐市74、佐々木養之吉74、大越万治郎74、大関与喜蔵74、伊藤健之助74、高味芳一74、工藤セツ73、安田サダ73、渡辺チエ73、斎藤タマ73、石井チヨエ73、加藤トメ73、小野円太郎73、加藤文治73、佐々木民太郎73、佐々木重吉73、佐藤俊郎73、早野甚三郎73、加藤金蔵73、鈴木スミ72、鎌田リエ72、佐々木キヨ72、高橋キヨノ72、中村ハナ72、沢井金之助72、千釜長吉72、上村千代松72、武田玉吉72、藤原エツ71、小林清71、三浦ナカ71、海老沢勝治71、後藤春治71、西サド71、西村キク江71、鈴木礼吉71、薄田フクエ71、伊藤久治70、黒川金之助70、嵯峨留治70、渡辺甚市70、伊藤泰治70、後藤サノ70、加賀谷サダ70、藤原ミエ70、今木屋

▲鶴沼合

木元長吉72、寺沢タケ72、代田寛一70、松井重四郎70、木元ミツ70

▲浦沼

目黒キクノ73、鎌田シナ70

▲下出戸

加賀谷堅蔵87、佐々木カヨ86、菊地ミナ85、佐々木善蔵85、加賀谷キヨノ84、佐々木ハル82、加賀谷トミエ82、佐々木与市82、佐々木五郎吉82、佐々木兼治郎81、佐々木ノブ80、佐々木ムメノ80、加賀谷スケ78、佐々木カネ77、◎加賀谷市太郎77、佐々木兼太郎76、佐々木鉄蔵76、佐々木キクエ75、加賀谷東太郎75、佐々木定八75、海野達郎74、佐々木武治74、佐々木吉之助74、加賀谷市蔵74、佐々木カヨ73、佐々木ミエ73、佐々木トキヨ72、佐々木ヤエ72、佐々木貴正72、鈴木さを72、加賀谷ハキエ71、加賀谷清吉71、佐々木久太郎71、加賀谷竹蔵70、佐々木ナツ70、加賀谷キヨノ70、佐々木チネ70、鈴木サヨ72、菊地多次郎70

▲出戸新町

佐藤春吉84、小林ヨシ82、門間サワ77、島山福治77、川村トキエ76、島山ハル73、中山ミナ73、沢口多加野72、米屋キエ71、斎藤良吉70、渡部清次郎70、渡辺為太郎70、徳原スチ70、渡辺ハツ70、菊地栄治郎70

▲細谷

菅原ハキノ75、戸嶋弥七72、菅原チタ71、大貫チエ71、大貫フユ71

▲上出戸

菊地トヨ85、菊地カネ85、菊地ナミ84、菊地貞治82、菊地東助80、菊地敬蔵77、菊地リサ75

第七回天王町老人クラブ大会が八月十一日に町公民館において行われた。

開会にあたって故会員に対する黙とうをささげ、続いて連合会長賞として永年の功績をたたえ、追分の岡田典鷹さん、中羽立の渋谷三郎さんに感謝状がおくられた。

また、第七回大会にあたり、与えられるクラブ活動から求めてつくるクラブ活動へと老後の生きがい活動の推進と、健康管理につとめ、自主的計画により意欲的な老人クラブ活動を展開しようとの大会宣言がなされた。



午後からは、お待ちかねの各単位クラブの芸能発表で、民謡同好会の協力を得て、楽しく笑い元気に第七回大会を終えた。

第七回老人クラブ大会 歌って笑って きょうも元気に

- 菊地ハルノ75、菊地ミン75、青山ノブ74、渡部米吉74、菊地ミノ73、菊地イシ73、菊地福三郎73、菊地徳之助72、菊地シモ72、菊地ノブ71、佐藤八重71、菊地久太郎71、菊地ヨミ71、菊地栄治71、菊地イサ71、橋馬五郎71、古山寅五郎70、渡部オヨリ70、小西幸之助74
- ▲追分▼
中泉キヨ82、武田儀一82、伊藤ハナ81、奈良ギン81、進藤ユリ80、中川スキ79、齋藤サリ79、中田アキ79、佐々木タネ78、小坂リナ78、海山徳之助78、鎌田要吉78、橋本タマ77、武田ミワ77、小野金治77、永井トワ75、大張ヤス75、海山衣子75、一関広二75、保坂リノコ73、大坂富蔵73、成田幸吉73、佐藤金五郎73、佐々木銀四郎73、門間耕作72、成田金治72、北島佐太郎72、帯谷善治72、堂長蔵72、赤羽キミ71、関山シゲヨ71、松森千代71、湊繁昌71、大庭チヨ
- 71、渡辺勇治郎71、三浦銀之助71、小野清蔵71、猿谷謙三70、柏谷ヨ70、関山シゲヨ70、小野チヨ70
- ▲追分西▼
加藤キン85、鶴谷チカ84、渡辺操77、鈴木忠治郎78、内田ヨヨ77、堀もも77、銭谷寅吉76、渡辺ナヲ75、鷲谷哲男75、石井三郎75、真井田リウ74、保坂広二74、鈴木タカ73、吉田三郎73、安部和歌72、高桑新之助72、加賀谷亀治71、藤井イシ70、鷲谷イチヨ70
- ▲北野▼
松橋悦次郎83、利部宗農79、菅生源蔵79、内藤イワ79、柳館クニ79、高桑ナツ77、松橋キノ77、進藤ツネ75、黒沼トキヲ74、近藤金之助74、中島敬之助73、山田魯平73、三浦カツミ72、大久保喜代治72、佐藤秀次郎72、佐藤ツキ72、利部智恵子70、吉田キサ70、佐藤クニ73、秋本ヲキノ72

ふえ続ける老人世帯

ひとり暮らしは六十六万人

明治時代の日本人の平均寿命は、男性四十二・八歳、女性四十四・三歳でした。それから約百年、男性は七十二・六九歳、女性七十七・九五歳と、世界の長寿国のトップクラスへ躍り出たのです。

もはや「人生七十年」はあたり前のことなのです。

つまり、日本は高齢化社会への第一歩を踏み出したといえます。しかも、そのスピードはたいへん速いのです。

昭和五十年は、十五歳から六十四歳までの働き手八・五人に對し、老人(六十五歳以上)一人の比率でしたが、三十年後の昭和八十年には、働き手四・一人に對し老人一人となります。

問題は、単なる老人人口の増加だけではありません。核家族の増加、扶養意識の変化などから、高齢者世帯の増加も目立っています。現在、ひとり暮らしのお年寄り、全国で約六十六万人にのぼると推定されています。

年金制度、老人医療の無料化、住宅問題、福祉サービスなど、社会保障の充実を図るとともに、老後をいかに生きるか、という面にも目をむける時を迎えているといえましよう。「長い持ち時間」を豊かに過ごすための「生きがい対策」がより重要な意味をもってくるのです。

この問題はお年寄り本人の課題であることはもちろんですが、周囲の人たちも、お年寄りの生きがいについて、アドバイスをしたり、相談のつてあげてください。



天王町を担う 新成人に316名

八月十五日、盆恒例の成人式が午前十時から町公民館で行われた。

新しく新成人となられた方は三百十六名で、半数以上の人が各地区の受け付けでは、ひさしぶりの対面に話もはずんで

式典がはじまるまで大声で笑い涙してしばし雑談が続いた。式典では新成人者名が確認され、続いて町から新成人の方々へ記念品が贈呈された。

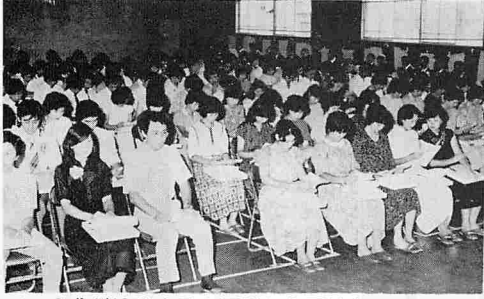
新成人を祝って来賓の方々から「新成人としての存在を自覚し、立派な社会人になってください」とお祝いの言葉をいただいた。

祝辞の後、新成人を代表して天王の太友 勝くんが「新成人として自覚も新



涙が出るほど笑いころげ、楽しい一日でした！

みんなの声をうけしげんに踊りにも熱が！



▲ 式典がはじまると緊張した面持ちに

たに立派な人間になることを誓います」とのべた。

式典終了の後、秋田県性教育研究所の窪田紀二先生による、「新成人における男女交際のあり方」と題しての講演があった。

記念撮影を終えた後、再び思い出話に話がはずみ、再会を誓って散会した。

ひさしぶりの対面に話もはずんで



◀ 後姿のカッコいいこと



▶ キタサーだど



▶ 青年会の協力で太鼓も勇しく

全町仮装盆踊り大会 キタサーキタサーの かけ声も楽しく

雨で順延と なった「全町仮装盆踊り大会」が八月二十一日午後七時半から行われた。今回参加したチームは四十三組で、昨年を下回りましたが、降り続いた雨もやんで絶好の盆踊り大会となった。午後七時半、太鼓が一斉に鳴りひびくと、かけ声も勇しく、楽しく夏の夜を踊り過ごした。

▶ 「アナター ちよつと見て」

▶ 「おいらん道中 ワチキも踊るわいな」



▶ 天候もあがって観衆もいっぱい



▶ 手ぶりもあざやかに藤娘

▶ 「仮装も楽しいやいな」



▶ 地蔵「これこれしつかり踊らんと賞はもらえんぞ！」

▶ 坊さんの踊りにまどわされユーレイもつられて「うらめしや」



▶ ニューファッションの肥料服をいかが！

保健婦だより

おいしい朝食で一日を元気に

一朝食に一工夫を

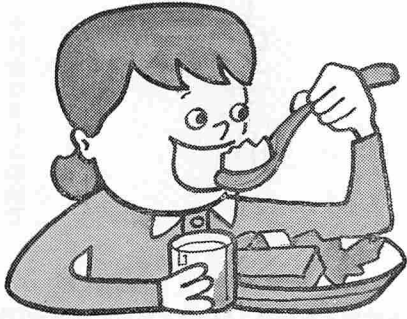
朝、目ざめると「体がだるい」「頭がおもい」などの寝起きの悪い方はいませんか。

朝をさわやかに迎えるため また正常に活動できるようにするために朝食のとり方が問題です。

まず、起きたら血液の循環を刺激するために、体がだるくても軽い体操をすることです。初めはけだるく、おっくうですが無理にでも行う習慣をつけてください。そうすることによって循環がよくなります。そして、食前に新鮮な生ジュースを飲むことをおすすめします。

生ジュースは飲んだ二十分後には血液に吸収され、栄養素が各臓器に運ばれて朝の目ざめをすっきりさせます。そして「さあやるぞ」という気持を起させます。

生ジュースの作り方のポイントは、野菜、くだものはすべて皮をむくこと。甘味をつける場合は必ずはちみつを使うこと。



生ジュースに砂糖を加えることは絶対に禁物です。なぜなら砂糖は体内でエネルギーとして燃える時、ビタミンB1を大量に使いますが、はちみつはそれらの栄養素を使わなくてもそのまま吸収されるからです。またしょうがなどの天然の香辛料を少量加えることによって胃液の分泌や血液の循環を高め、目ざめをすっきりさせます、特に貧血、低血圧の人によいとされています。ただし、胃潰瘍、十二指腸潰瘍などの方は香辛料は加えないでください。

次に生ジュースを飲んだ後は食欲がなくても朝食をきちんとする習慣をつけることが大事です。目ざめの悪い人はとくに朝食をぬかしがちですが、朝食こそ一日のはじめのエネルギー源として大事です。

朝食の内容は、パンでもご飯でもよいのですが、パンはそのまま食べるよりトーストにしたほうが消化吸収がよいので必ずほどよく焼いてください。ご飯の場合は、白米だけのものより白米の中に強化米などの混じっているものをおすすめします。

朝食は一日のエネルギーとなるので、副食は栄養価に富んだ良質のたんぱく質、野菜をたっぷりとることが大切です。

野菜のあいもの、炒もの、チーズ、大根おろし、なっとう、実のたっぷり入ったみそ汁など季節のものをとり入れ、バラエティにとんだ献立で、元気に過ごしましょう。

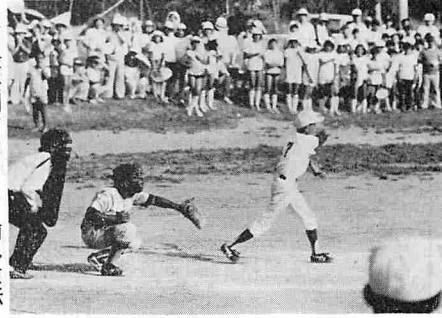
- 天王町俳句会(八月分)
- 京言葉三つ指ついてすだれ越し
- 天王 京谷 郷愁
- 物陰を捨て歩むや街の道
- 渋谷 戸田 栄春
- 山一つ影を写して夏雲の
- 追分 藤原 邦
- 声揚げて山車呼び込む大団扇
- 天王 児玉 伯秋
- 地下道に入り来てなほも蟬時雨
- 追分西 鶴谷 トシ
- しみ出る樹液伝うや蟻の道輪
- 天王 米谷 冬華
- 父と子で日焼け較べの夕餉の膳
- 二田 三浦 絹子
- 萩の門訪えば手打水の清しさよ
- 追分 安田 鹿山

南秋小学校野球大会

追分小学校初優勝なる

決勝でサヨナラ勝ち

七月二十六日から二十八日の三日間にわたって大潟小学校グランドを会場に、南秋田郡小学



最終回、センター前へ逆転の一打をはなつ

校野球大会が行われた。

本町からは、天王、東湖、出戸、追分小学校の四校が出場したが追分小学校を除いて惜しくも敗れた。

追分小は初戦大久保小と対戦熱戦の末八対七で一勝。

固さのとれた追分小は、本来ののびのびとしたプレーをみせ、大川小を十二対四と撃破、初の決勝へ進出した。

決勝では強豪井川小と対戦。初の決勝でコチコチとなった追分小から井川小は早ばやと五

点を先行。しかし地力のある追分小は三回から反撃、四点を返し、一点差となる好ゲームが続いた。しかし、七回表井川小の攻撃で二点を失い、三点差となったときは、もはやこれまでと

思われたが、最終回追分小の反撃が開始。よもやと思われた三点をあげ同点とし、ランナーを塁上にためて決勝の一点をもぎとりサヨナラゲームとした。

決勝のランナーが生還すると応援の父兄の方々は肩をたたきあつて涙し、勝利にいいしれていた。

三日間にわたって行われた激戦も追分小の初優勝で幕を閉じた。

追分小は南秋地区の代表として八月十日、全県大会に出場したが、優勝した港北小と対戦、コールドで敗退し、全県大会の壁のあつさを感じさせた。

全町軟式テニス大会開催

九月二十四日 午前九時三十分開始

▽とこ 町軟式庭球場

▽参加資格 町在住、もしくは勤務している者

▽ダブルス(男女とも) ①二十歳未満 ②三十五歳未満 ③三十五歳以上

▽申込み 九月二十一日までに町公民館へお申込みください。

子宮がん検査のお知らせ 健康は自分自身で管理

町では毎年子宮がんの検診を行っておりますが、受診率は十四割と非常に低く、それでも受診者の中から毎年一、二名の早期のがんが発見されています。

がんは四十、五十代の方にも多く、女性のほとんどは、胃がんと次に子宮がんで早期に発見できれば手術によりほとんど治ります。

生理以外に少しでも出血のある場合や接触出血、こしげが多くなつた、こような症状は自分で注意すれば見つけることができます。

みのがすことのないよう注意し、年二回の定期検診をうけましょう。

▽検診日時、及び会場

○九月二十五日(月)

羽立分館

。二十六日(火)

天王本郷分館

。二十七日(水)

天王町公民館

。二十八日(木)

出戸地区コミュニティセンター

。二十九日(金)

追分分館

▽受付時間 各会場とも午後一時三十分から三時まで、

▽申込期日 九月十六日まで

▽申込先 役場保健衛生係か地区保健会

◎検診料は一人三百円です。(一人一千七百円のところ、町負担一千四百円)

▽受診上の注意 ①服装は、着物がスカートが便利ですが、問診の際に何日目であるかをはっきりお知らせください。

短歌

天王町短歌会詠草(七月分)

転作の大豆蒔かんと水の中月をあおぎて帰る日続く

江川 伊藤テツエ

挿芽して二十日過ぎたる砂床に

大菊の芽は根付きたるらし

羽立 安田 ツル

手も足もドタリバタリと投げつけて

寝るなり灼くる夏日は

天王 児玉 俊一

軒下に花あでやかなしやぼてんと

嫁が声して吾に教える

渋谷 桜庭アヤエ

初めての草刈機械を持つ吾子に

ものいわず父の目あとを追うなり

塩口 桜庭 慧子

静かなる夕日の沈む岩壁で眺む

る波に光り輝やく

追分 小野のり子

ガラス鉢の水面に浮ぶ紫陽花の

夕餉の卓に涼を招きぬ

二田 三浦 絹子

俳句

